

キタ
再発見の会
×
うめらく未来
ミッション



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は実際に地域で活動している方と、地域で活動をした人をつなぐ交流の場として定期開催しています。未来にミッション(使命)を感じて活動する方々がつながり合うことにより、地域活性化仲間となり、実践のきっかけとなりますよう、皆様に気軽に立ち

第10回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション (vol.18)

□テーマ 『個性と多様性の街・裏キタ・北野地域の今未来』
□コーディネーター:一般社団法人うめらく 企画担当 細川 裕之
□ゲストスピーカー:北野連合振興町会 会長 植松 光徳 様
□日時 2019年11月5日(火) 18:30-20:30
□会場 都市活力研究所セミナールーム

北野地域は「角田町、小松原町、堂山町、神山町、兎我野町、太融寺町、野崎町、南扇町」の個性溢れる8町会からなる地域です。歴史の変遷も大きく、過去を紐解きながら北野の街の成り立ちをご紹介します。また、近頃では「裏キタ」と呼ばれたり、大阪市北区内屈指のカルチャー発信のエリアで、それぞれ多様な側面を持つため一括りにしづらいからこそ見えてくる個性と多様性の街です。今抱えるリアルな課題や未来に向けたミッションプランについて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

■第1部 個性と多様性のまち・北野

(細川氏) 本日のナビゲーター役の細川です。今日は北野連合振興町会の植松会長にお越しいただいておりますので、北野地域の過去から現在・未来の話を進めたいと思います。植松様は堂山町で植松技研という会社を約40年間経営されておられまして、生粋の北野っ子でいらっしゃいます。北野地域は平成27年現在で人口は1,565人、北区の19地域のなかでの人口割合は1.3%で、住民は少ない地域です。しかし現在はマンションの建設ラッシュで人口増加率は高いほうです。位置的には北区のど真ん中ですが、どこにあるのか知っている人は少ないようですが。

(植松氏) そうですね。北野ってどこ?といわれることはあるんですけども、もともとは北野村なんですね。済生会病院があったあたりに北野中学があり、それが北野高校になりました。そこから扇町公園のあたりまでが北野村でした。北野の名前は、北野病院などに残っています。

(細川氏) まず歴史を見ていきたいと思います。今昔マップをご覧くださいですが、扇町公園は昔は監獄だったんですか。

(植松氏) 処刑場もあったんです。

(細川氏) 寺町橋という地名のところに川があって囚人を船で運んでいたそうです。

(植松氏) 掘った川なので堀川という名前が残っています。

(細川氏) 太融寺のあたりはお寺がたくさんあって、寺町だったんですね。ですから北野エリアはお寺が多い。その後道路が整備されていった関係でお寺も分散していった。北野という名前よりも、その中にある8つのまちの名前の方が知られている感があります。まず角田町、阪急百貨店などがあるエリアです。大阪で最も地価が高いところで。

(植松氏) 阪急村ですね。阪急の駅が今の百貨店の下にありましたので、昔は北野地域に駅がありました。

(細川氏) その角田町の隣が小松原町といって、阪急東通り商店街など商店街を中心とした商業エリアです。昔は駅前の商店街という感じでした。

(植松氏) この写真はOSビルと富国生命ビルの一隅ですね。ヤミ市に来ていた人向けの飲食街や旅館がありました。

(細川氏) 富国生命ビルに産学連携拠点が入ってきてアカデミックな雰囲気になりました。小松原町から少し東にいったところが堂山町です。先ほどの商店街の流れで飲食店が多いですね。

(植松氏) 阪急東通り商店街には6つの商店街がありますが、そのうちの4つが堂山町にあります。ちなみにパークアベニューにはアーケードはありませんが。

(細川氏) この辺りは雑居ビルが建て替わってマンションになってきていますね。

(植松氏) 賃貸マンションが多いです。

(細川氏) 北野大和屋も堂山町にあったんですね。

(植松氏) 企業の経営層の方が接待で使っていました。京都から舞子さんが来られたりして、華やかな社交場の雰囲気でした。キャバクラは以前からありました。

(細川氏) バブル経済崩壊後は飲み屋街になって、最近は無料相談所ができたり、西日本最大のゲイタウンといわれています。

(植松氏) 堂山町としては、それを否定するのではなく許容しているので、レインボーフェスタにブースも出している。

(細川氏) 次が隣の神山町です。そこに綱敷天神社さんという由緒ある神社があります。また学校が多いですね。

(植松氏) 綱敷天神社は菅原道真公が流される時に座布団が無くて船のまゆい綱を巻いたところにお座りになった、その綱をご神体しています。綱敷天神社の裏にキリスト教の扇町教会や金光教の扇町教会があったり、もう少し奥にはYWCAがあります。

(細川氏) 神山町も最近はマンションの建設が多いですね。あと北野老人憩いの家が様々な活動の拠点となっています。5つ目は太融寺町です。太融寺は真言宗のお寺で淀君の墓があります。昔は映画館もあったようですが、今はダンス教室とか文化的なことをやるスポットが多いですね。

(植松氏) 1棟まるごとダンススポットというのもあります。元の木津信用金庫のビルです。

(細川氏) その隣がなかなか読めない、兎我野町。ものすごい歴史があるんですね。1300年くらい前の書物に兎我野町の名前が出てきます。「兎我野」も時代によっていろんな表記があったようです。ここも以前は寺町だったとあるお寺の住職から聞きました。

(植松氏) 豊臣秀吉の時代に京都から攻めてこられるのを防ぐために寺町をつくった。

(細川氏) そのお寺が移転した跡地を利用してホテルが立地して歓楽街ができたと言いました。

(植松氏) 昔から神社とかお寺の周りには歓楽街ができるんですよ。北野地域の一番の課題は治安でして、商店街でガードマンを雇って客引きを防止していますが、せいぜい12時までしか雇えない。警察もいろいろやってくれているが、客引きが減らない。ということは、ほったくりのお店があるということです。どうしたらほったくりのお店を減らせるかが一番の課題です。

(細川氏) 次は南扇町です。扇町公園のすぐ南側ですね。公共の施設が多く、住民は少ない。

(植松氏) 1つだけ、マンションがあります。もうすぐ医誠会病院ができます。2棟の構成で、1つはコミュニティスペースと医療病棟、もう1棟は療養病棟になります。

(細川氏) 小劇場やワークショップスペース、健康にこだわったカフェやコンビニができるようです。

(植松氏) その斜め向かいに昔大阪ガスの扇町ミュージックスクエアがあった。そういうこともあるので受け継いでもらえたらありがたいという思いがあります。

(細川氏) 大阪はまちの規模に比べて文化的な施設が少ないですからね。

(植松氏) 昔バナナホールというのがあって、なくなりましたが、第三商店街に復活しました。

(細川氏) 兎我野町にも関西テレビの旧社屋のところにジャズのお店が集まってジャズストリートになっていました。カルチャーの中心地だったというのが、北野の歴史ででてきます。最後の野崎町は南扇町の更に南側で、読売新聞の大阪本社があるエリアです。オフィス街のイメージが強いですね。今はライブができたりマンションが建ったりして暮らしの要素がでてきました。よく聞くんですが東梅田教会は地域に開かれてるんですね。

(植松氏) 音楽会の予定がいっぱい入っています。

(細川氏) 大きなマンションができますね。もともと住んでいる方が少ないので町会が大変ですね。

(植松氏) 490邸という大きなマンションです。もともとあった町会

では対応できないので、9月から北野地域の新しい町会の1つになりました。

(細川氏)以上、北野地域は個性が際立っているエリアの集合体であるということをご紹介してきました。先ほど申し上げましたように、老人憩いの家を中心に様々な地域活動が行われています。これは北野エリアの年間スケジュールポスターですが、数えると170回くらい何かしら行われています。お父さんの料理教室というのは珍しいですね。

(植松氏)老人憩いの家に結構立派な厨房がありますのでいろんな料理ができます。

(細川氏)年配の男性は孤立しやすいということをよく聞きます。

(植松氏)そういう人たちを引っ張り出したいということですよ。

(細川氏)秋の音楽会は先ほどの東梅田教会ですか。

(植松氏)そうですね。なるべく地域の若い音楽家を育てたいということで始まったんですけども、生の音を聞いていただくというぜいたくなものです。

(細川氏)植松さんから事前にまちの課題をお伺いしております。まず町会ごとの色が違ってなかなか一枚岩になりにくい。2つめが世代交代が進んでいない。理由の1つとして神社がやっていたお祭りが途絶えてしまっているので、まちをあげてみんなが一緒に行う行事がないと伺っています。そしてプレイヤーが不足しているということですが、独自にされているが連携ができていないということかもしれません。どうしたら個人や会社が一緒に取り組んでいけるか。働きに来る人のモラルが低いのでまちの秩序を守ってもらえない。また不法駐輪が多く対策しても減らないことが挙げられます。北野の名前を知ってほしいということもお伺いしました。

私が北野について調べていた時に気付いたキーワードを出しておく、例えば「裏キタ」ということで、なんば周辺で「裏なんば」ということで新しいカルチャーが生まれるエリアになっています。実は数年前に地元の飲食店のオーナーたちがマップまでつくっておられたんですが、更新が途絶えています。せっかくそういうものがあるなら、「裏キタ」という言葉を使ってまちをブランディングしていくというのはどうかと思いました。

(植松氏)ほくは裏とは思っていないけどね(会場笑い)。大阪駅も裏と表がひっくり返るかもしれないですが。

(細川氏)北野は梅田、中崎町、天満、南森町といった性格の強い地域の間であって、ブランディングが必要だと思ったんです。ほくの見解ですが、北野は汽水域だと思います。汽水域は川と海の交わるところで、他にない新しい生態系が生まれる。まちで言えば新しいカルチャーが生まれる、個性に富んだ場所ということですよ。地元の人と外の人、歴史と現代、文化と風俗、生活と商売が交り合うまちが北野だなと思いました。このように交り合うところから新しい未来が生まれるという仮説を立ててまちづくりをしていくと、北区の中で次の時代を作っていくところになるのかなと感じました。

(植松氏)自転車の問題も、例えばロンドンでは通勤の9割が自転車だそうです。梅田はそれを拒否している。大阪のまちは坂が少なく自転車が利用しやすいまちなんです。しかし盗難が多いので、盗難されない方策について今考えているところです。

(細川氏)植松会長、ありがとうございます。

■第2部「北野地域から紐解くまちづくりの未来」

(細川氏)会場からスマホを通じていくつか質問をいただきましたので紹介していきたいと思えます。

(植松氏)PTAの関係はというご質問ですが、これが今問題になっていまして、扇町小学校があまりにもいろんな学校を統合したものですからPTAの役員に地域の人がないんです。普通なら地域にPTAの役員がいればその人が地域の後釜になっていくんですが、そこをなんとかしないと後釜が増えないという話もあります。

(細川氏)第1部ではまちの治安とか不法駐輪、ゴミの問題などがあって、それを頑張るだけではなく楽しみながら解決していく要素も必要だと思います。ここからは北区全般に視野を広げて、まちで抱えている問題をどう解決していくかというアクションプランを考えたいと思います。うめらが他の地域でやっている活動をご紹介します。

(山田氏)ホッププロジェクトについてご紹介いたします。うめきた2期暫定事業で継続して関わられる活動を通して顔の見える関係をつくりたいということで、野菜や花を植える植栽活動を始めましたがあまり仲間が増

えませんでした。そこで私がビールファンでしたので、2017年にこれを仕事にしたいと思い、ホップを育てようと思いました。寒冷地でしか育たないといわれていた苗がうめきたで育ちました。Facebookに投稿するとマイクロブルワリーの店主から、僕のところでビールを作らせてくださいというラプコールをいただきました。2018年には、「私もホップを育ててみたい」という声をいただいたので、株を仕入れて「株主」を募りました。2019年からは緑化事業を手掛ける企業との共同事業に発展しました。

(細川氏)ホップの成功事例を北野エリアの課題である自転車に置き換えてみたいと思います。自転車フリークの岸上さん、いかがですか。

(岸上氏)若者は車に乗らなくなった代わりに自転車にお金を使うようになっています。だから盗まれるのはいやだと思う。自分の自転車が安心して停められるようなデザインができればいいと思います。タグと地域通貨を組み合わせた駐輪場ができればいいのではないのでしょうか。

(細川氏)例えば北野を自転車好きが集まるまち、自転車で暮らしか楽しめるまちという要素をつくと、企業の協力も得やすいのではないかと。自転車を愛するまちということになればマナーもよくなると思います。

(山田氏)前回の北天満地域で紹介しました旧北天満小学校で「スイミープロジェクト」を立ち上げました。これは東日本大震災のあとに子供たちを応援したいということで、巨大なこいのぼりに夢を書いて掲揚するというイベントですが、地域の会長が「こいのぼりをあげたい」とおっしゃったので私がスイミープロジェクトを紹介して4月にイベントを行いました。その後いろんな活動を通じて日本アウトドア協会や一般社団法人72時間サバイバル協会とつながりました。

(細川氏)植松会長はボーイスカウトの役員をされています。

(植松氏)リーダーはもう50年近くやっています。

(細川氏)防災に楽しむ要素を入れることで考える機会になりますね。防犯でも顔見知りになることが結構大事ですよ。

(岸上氏)専門学校で学生にまちづくりの課題を出して企画提案を求める授業をしています。その中で中津地域を対象に考えた結果、地蔵盆がなくなっていることがわかりました。当初地蔵盆復活プロジェクトという企画でしたが、今は「ほんぼりまつり」という名称で8月の終わりに開催しています。場所は中津中央公園で、地域のお店や企業の方に出席していただいているんですが、たくさんの方に関わっていただけるようなしくみを目指しています。

(細川氏)ほくらの世代が地域に関わるというときは、0か100かみたいところがあるんですね。ちょっとずつ慣らしながら顔見知りになって、気が付いたら地域の人間になっているという受け入れ体制が大事だと思います。ほんぼりまつりは関わりしろがいっぱいあるのがいいと思います。以上、課題解決のちょっとでもヒントになればということでご紹介させていただきました。

(植松氏)おすすめのお店マップはありますか、というご質問ですが、商店街のホームページには載っていますし、案内所もまともな案内所があります。そこはほったくりの店を紹介しないということで、組合をつくっています。

(三本松)今日は北野地域について詳しく知る機会になりましたので、是非足を運んでください。一見では行きにくい店もありますので、地域の良いお店を知ってもらって応援し、永續するような街になればいいなと思いました。本日はありがとうございました。

